

窓辺

自然から学ぶ

あんどろ
安藤 隆敏

昆虫、天体、岩石について学ぶようになったのです。

私が自然観察の分野をライフワークにしたのには理由があります。教員時代のある朝、登校途中で見つけた野草の花を持ってきた子供たちがいました。子供たちは私の顔を見るなり「先生、この花は何という名前ですか」と尋ねました。しかし、まったく分からず「図書室に図鑑があるから調べてみてね」としか言えませんでした。

動場に走って行きました。せっかく持った興味の芽をつぶしてしまつたと、深く反省しました。

そして、先輩から米国の海洋生物学者レイチェル・カーソンの著書「センス・オブ・ワンダー」を紹介されました。自然の神秘さや不思議さに目を見張る感性の大切さを訴えた内容です。私は、子どもたちが触れる可能性のある自然について事前に知っておきたいと強く思いました。そして、仲間とともに身近な樹木や野草、

丸医学生理学賞を受賞した大村智先生は記念講演の中で「人間が抱える課題の答えはすべて、自然の中にあると確信している」と述べていました。生物や自然に学び、科学技術や暮らし方に応用する「バイオ・ミメティクス」や「ネイチャー・テクノロジー」がますます重要となっています。その一端を浜松科学館では、16日からの特別展「生き物から学ぶ！展」で紹介します。

この言葉を聞くなり、子供たちはその花を捨て、ドッジボールをするために運

動場に走って行きました。

(浜松科学館館長)